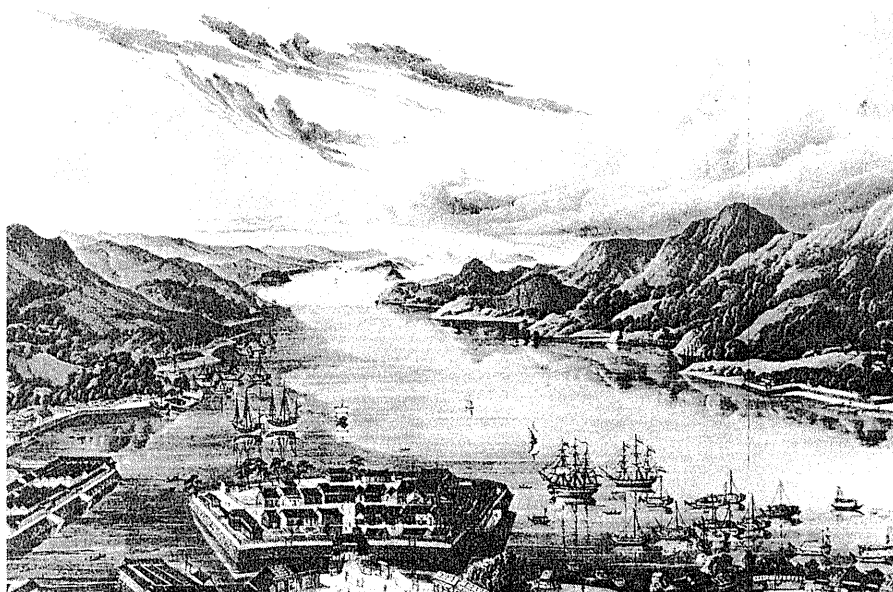




シーボルト Philipp Franz von Siebold (1796-1866) は、ドイツ・バイエルン州北部の学都ヴュルツブルク市で有名な学者一族の出身で、1823年に長崎出島のオランダ商館付の医師という資格で来日した。6年間に及ぶ滞日中は、当時の外国人としては破格の自由を与えられ、多くの蘭学生を育てた。彼は医学者であり、また博物学者でもあったから、ヨーロッパの本格的なナチュラリストとわが国の自然科学者との出会いとして、彼の残した足跡はきわめて興味深い。シーボルトは、門人たちの献身的な助力をえて、自然誌的観点から日本に関する広汎かつ綿密な学術的調査を行なった。離日後はオランダに滞在し、その龐大な資料をもとに有名な三部作『NIPPON』、『日本動物誌』(1833-)、『日本植物誌』(1850-)を出版した。『NIPPON』は1832年から20年間にわたって刊行を続けたものの未完におわった大著である。シーボルトというと、わが国ではとかく彼が日本に与えた影響という視点から語られがちだが、日本はひとまずおいて、18・19世紀にヨーロッパで急速な進展をみた自然研究のコンテクストに即してこのナチュラリストをみるべきではなかろうか。上図は『NIPPON』所収の長崎出島風景図である。日本人画家による素描のもとにおそらくオランダ人画家が描きおこしたものであろう。陸から海を鳥瞰するヨーロッパ風景画のひとつの表現伝統が作用しているが、いかにもそれが、自然を総合的に把握しようとするこの学者の態度にふさわしい。教養図書館蔵の『NIPPON』は、初版本の復刻で、限定485部の内の1セットである。

図書館利用

の す す め

吾妻寛治

新入生の皆さん、入学おめでとう。図書館を代表して、心からお祝い申し上げます。

この機会に図書館について、皆さんの一層の理解と認識を得たいものと、立場上からも筆をとりました。

図書館については皆さんも既に、園児から児童そして生徒へ成長する課程で、それなりの感想や印象を持っているでしょう。学問の府である大学では、図書館はその顔と考えられ、格別の意義を持っています。図書館を見れば、その大学の全容が推定できるとの意味です。だからと言って、外観の美や蔵書の量だけが問題ではなく、いかに利用されているかです。ドイツの文豪ゲーテは、申しております。

「一国民の文化は、測定できます。公立図書館の書物の背に積る埃の厚さを見ればよいのです。」埃をかぶる暇のないように、皆さん、大いに図書館を利用して学生生活を実りあるものにして下さい。

皆さんは各自の専門学部へ進む前に、教養課程を経なければなりません。学問に関する基礎知識が、厳格に教授されます。基礎的なことは、その重要性にも拘らず、軽視されたり無用視され勝ちです。教養課程にもこの傾向があり、新入生に好ましからぬ影響を及ぼしております。例えば、教養課程を恰好の息抜き期間と考え、青春謳歌に浮かれる類です。

本学の場合、教養課程の持つ使命は、皆さんの大部分が「いのち」の学問に関連するが故に、文字通り重にして大と申せます。生命

の科学者にこそ、精神的なもの、アフリカ・ランバレーネの密林の聖者、シュバイツァーのいう「いのちに対する畏敬の念」が不可欠です。皆さんには、知と心のバランスが大切です。これを考量して、教養課程の講義は展開されます。その真意を理解せず、息抜き場所は論外として、単位の取得のみが関心事であるなら、それは皆さん自身の不幸でもあります。序でながら、皆さんの進路選択の適否をチェックするのも、教養課程です。その結果、進路変更を余儀なくされるケースが、例年少くありません。以上のように、教養課程には歴とした存在理由があります。皆さんの本学学生としての自覚を要望し、実りある教養課程を念願する所以です。

従って図書館、正しくは教養図書館も、地味ですが大きな使命を持つ教養課程に恥じぬ顔たるべく、運営に当る教職員は努力を重ねております。なおかつ不備の点はあると思いますので、皆さんも図書館利用の折に気付いた点は、大小を問わず申し出て下さい。利用者の協力こそが肝心ですから、皆さんの積極的な活動を期しております。それを促進する意味もあり、図書館は独自の行事を計画しております。PRを兼ね予告しておきますので、皆さんの参加を大いに期待しております。

表題にそぐわぬ一文となりましたが、図書館運営の責任にある者として、常に心に留めている例のゲーテの言葉を引用いたします。

「図書館にいと、知らぬ間に莫大な利子を生む大資本を目前にしているような気分になる。」

図書館こそは、人を知的にも心的にも豊かにするという比喩です。教養図書館も、こうありたい、否そうなりつつあると確信しております。この確信を文字通りにするためにも、皆さんの協力を改めて要望いたします。それは同時に、皆さん自身の知と心を豊かにすることにも通じるのです。そして努力は、それなりに報われるものなのです。 (館長)

●総記

平凡社大百科事典 全16巻
平凡社 1984 R 031/H 51/1-16
神奈川年鑑 昭和60年版
横浜神奈川新聞社 1984
R 059.137/Ka43/1985

●哲学

図説大聖書 A.フロッサール[等]編
新見宏[等]訳 講談社 1984 193.09/Z 8
科学からメタファーへ R. D. ラマニシャイン
著 田中一彦訳 誠信書房 1984 140.1/R 66
自我と無意識 C. G. ユング著 松代洋一 渡辺
学[共]訳 思索社 1984 145.1/J 95 g

●歴史

日本中世の社会と民衆 稲垣泰彦著
三省堂 1984 R 210.4/I 52
新日本ガイド 全21巻
日本交通公社 1984 291.08/Sh64/1-21
ロンドン歴史・文学散歩 宮崎昭威著
三修社 1984 293.33/Mi88

●社会科学

1984 and After
ーコンピュータと未来を語るー
N. コールダー著 岩波書店 1984 304/C 13 a
ジェンダー 女と男の世界 I. イリイチ著
玉野井芳郎訳 岩波書店 1984 367/I 39
福祉国家 全6巻 東京大学社会科学研究所編
東京大学出版会 1984 369.08/To46/1-6
儀礼の象徴性 青木保著
岩波書店 1984 385/A 53
病氣と治療の文化人類学 波平恵美子著
海鳴社 1984 387/N 47

●自然科学

洋学史事典 日蘭学会編
雄松堂出版 1984 R 402.105/N 71
先生と生徒のための物理実験 科学の実験編
集部編 共立出版 1982 420.72/Ka16

星座をみる楽しみ 寿岳潤[等]著

岩波書店 1984 440.8/H 92/1
海のはなし 全5巻 海のはなし編集グループ
編 技報堂出版 1984 452/U 74/1-5
生命の科学 全12巻 渡辺格[等]編
培風館 1981 460.8/Se18 a/1-12

●工学

世界建築事典 J. フレミング[等]著
鹿島出版会 1984 R 520.3/P 48

●芸術・音楽

講座美学 全5巻 今道友信編
東京大学出版会 1984 701.08/I 44/1-5
モーツァルトの生涯 海老沢敏著
白水社 1984 762.346/Mo98 j
サーカス研究 蘆原英了著
新宿書房 1984 779.5/A 92

●語学

言語とメタ言語 R. ヤコブソン著 池上嘉彦
[等]訳 勁草書房 1984 801/J 16 a
理工系学生のためのドイツ語入門 高木実著
三修社 1984 845/Ta29 b

●文学

主体の変容ー現代文学ノートー三浦雅士著
中央公論社 1984 910.26/M i 67
源氏の恋文 尾崎左永子著
求龍堂 1984 913.36/O 96
良寛 水上勉著
中央公論社 1984 913.6/M i 36
杜甫詩注 全8巻 吉川幸次郎著
筑摩書房 1977 921.43/To11a/1-8

●新書

ハングルの世界 金岡基著
中央公論社 1984 中公新書742
フルトヴェングラー 脇圭平・芦津文夫[共]
著 岩波書店 1984 岩波新書282
情報ネットワーク 今井賢一著
岩波書店 1984 岩波新書285

誰が為に図書館は……

桂 芳 久

「砲術は悪魔の発明だが、印刷術は神の発明だ」といったのは、15世紀フランスのルネサンス期の詩人、フランソワ・ラブレーである。この世紀はヨーロッパでは宗教改革の時代で、THE REFORMATION と英語では書くが、formation は秩序の意味であるから、言葉の本来の意では、「世直し」という日本語が最もふさわしいと思う。

実際、ヨーロッパは文字の力によって中世の秩序が根底から揺らぎはじめた。M・ルッターたちによるラテン語聖書から民族語訳への運動。そして、ヨハン・グーテンベルクの印刷術の発明による情報社会の出現である。畑を耕す人にもわかる聖書などの大量出版は、結局手書きにたよっていたカトリックに対してプロテスタントを勝利にみちびいた。

本は文字どうり力である。本が世の中を変えていく。本から知識を得た者によって社会が改革されてきたのが歴史の足跡である。

文字を識っている人、つまり本が読める人々が、人類の長い間の支配者であった。日本書紀が読めた人はどんな連中であったか。源氏物語の読者は？

15世紀の中期頃のヨーロッパ、つまりグーテンベルクの印刷術の発明以前は、全欧で手書きの本が10万冊くらいしかなかったという。本は手仕事で筆写される重労働で、200ページの羊皮紙の写本をつくるのに、羊25頭分の皮が必要だった。食糧のとばしい時代に本一冊のため羊25頭犠牲にするのは大変なことである。

製紙法の発明は人類へ火と共に貴重な神の賜物といっていいだろう。紙に文字を印刷す

る技術がどれほど人類の知識を豊かにしたのか。

10万冊の本を身近に比較すると、現在、わが教養図書館に在る本が約7万4000冊で、この数は決して少なくないはずである。天地を動かす力をひめているのだ。

しかし、統計によると昭和58年度に我が国で出版された本は31,297点で、冊数は実に12億200万冊なのである。月刊誌、週刊誌の雑誌はふくんでいない。

まさにこれが現代情報社会の実態である。大学生とは、本を読む時間を与えられた者のことである。本が読める状況に恵まれた存在である。

いま一つの統計によると、昭和15年(1940)の新刊本の平均定価は1円98銭であったが、昭和58年(1983)には2,740円で約1400倍になっている。この値上りは精米とほぼ同じである。郵便はがきの2000倍よりは安い、それでも本は決して安くはない。元禄9年(1696)の出版目録によると井原西鶴『好色一代男』秋田屋版が銀5匁である。金1両が銀60匁であるから、現在、金1両が82,500円くらいに当るそうで、銀5匁は約7千円弱である。江戸時代でも本が買える人はめぐまれた階層であった。

無料サービスする知識の宝庫である図書館が、いかに重要なものであるかわかるであろう。

(文学)

■閲覧証の交付

教養図書館を利用するには閲覧証が必要です。新入生の皆さんには下記の日程で交付します。当日カウンターまで取りに来て下さい。ただし、医学部は医学図書館で、看護専門学校は看護専門学校事務室で5月7日以降交付します。なお、交付までの間は、学生証を使用して下さい。

衛生学部	5月7日
薬学部	5月8日
獣医畜産学部	5月9日
水産学部	5月10日

■雑誌

一階の雑誌コーナーの書架表側には新着雑誌が、扉を開けると中に、その年のバック・ナンバーが入っています。1年分がままとすると、製本され、二階の書架に排架されます。ただし、1980年以前の雑誌や、雑誌コーナーにない雑誌についてはカウンターでおたずね下さい。

雑誌の貸出期間は、新着の雑誌がオーバー・ナイト（一夜）貸出、古いものが一週間です。また本学がどのような雑誌を購入・所蔵しているか知りたい方は、『北里大学学術雑誌総合目録』を利用して下さい。

■新聞

教養図書館では、朝日、毎日、読売、日本経済の各新聞のほか、神奈川、北海道、河北、信濃毎日、中国、西日本、沖縄タイムズの地方紙、読書新聞、英字新聞、専門紙など約20種ほどを受入しています。新聞は3ヶ月保存して廃棄します。それ以前のものを読みたい

場合は縮刷版（朝日、毎日、読売、日本経済）を利用して下さい。新聞の貸出はしませんが、縮刷版は雑誌と同様、一週間の貸出ができます。

■その他

教養図書館ではこの『閲覧ニュース』を年、3回発行しています。蔵書紹介や新着図書案内、またエッセイやその時々のお知らせなど、利用の手びきとして、別の『図書館利用案内』とあわせて御覧下さい。

* * *

「講義用参考文献コーナー」

新設について

図書館では、講義に使われる参考書を毎年購入して皆さんに利用の便宜を計ってきました。けれども一般の図書と共に排架（配置）されていたため、目に触れにくかったことと思われまふ。そこで、新しい試みとして「講義用参考文献コーナー」を設けることに致しました。

講義の理解に役立つ参考書をはじめ先生方が講義の際に触れられる可能性のある図書も入れてあります。新設の「講義用参考文献コーナー」は、学生の皆さんが、毎日の講義内容をよりよく理解し、専門分野の考え方のヒントをえられるように参考書を集めたコーナーです。大いに利用して講義を有意義なものにしてもらえたらと思います。

「講義用参考文献コーナー」を皆さんに利用していただけるようになるのは5月以降の予定です。詳しくは直接図書館カウンターで係員に尋ねて下さい。

閲覧ニュース45号

1985. 4 発行

北里大学教養図書館

発行責任者 吾妻寛治

〒228 相模原市北里1-15-1

電話 (0427) 78-8005